

中央区男女共同参画ニュース

Bouquet

ブーケ

◎特集

犯罪から身を守る 暮らしを守る

No.48
2005.12

CONTENTS

特集	犯罪から身を守る 暮らしを守る	2P
	まちを守る地域の力	4P
	女性を取り巻く犯罪への対処と中央区の防犯状況	5P
	輝く女性にインタビュー in 中央区 常磐津兼豊さん	6P
Topics	「地域で育てあう女性のパワーⅡ」	7P
	中央区ニュース	8P



浜町三丁目東部町会の夜回り。地域の力が犯罪を防ぐ

犯罪から身を守る 暮らししを守る

凶悪な犯罪、女性や子ども、お年寄りなどを狙う卑劣な犯罪……。今回の特集は、そうした犯罪から身を守るために、自分たちのまちを安心して暮らせる安全なまちにするために、私たちにできることを考えます。

◆被害にあわないために

犯罪を未然に防ぐには、まず一人ひとりが身を守るために必要な知識と情報を持ち、防犯を心がけることが大切です。

まず、被害が多発する場所、時間帯、犯行手口、どんな人が狙われやすいかといった犯罪の発生状況、最近の傾向を知っておきましょう。新聞やニュースで取り上げられるような大きな事件だけでなく、ご近所のこと、通勤・通学、買い物などでよく利用する道、交通機関、商業施設などで起きた事件、犯罪についても、日ごろから気をつけて情報収集に努めましょう。

防犯対策として、夜道を歩くときは携帯電話で話をしてる振りをすると、携帯用アラーム、催涙スプレーなどの防

犯グッズを持ち歩くといった用心深さも必要です。

万が一、危険が迫ってきたときは、とにかく逃げるのが大切です。それが不可能な場合は、大声で叫んで人を呼び寄せます。もつとも確実な方法は、「火事だ！火事だ！」と叫ぶことです。そうすれば、深夜であっても近隣の人が家から出てきたり、窓を開けて様子を伺ってくれます。

◆地域で取り組む防犯

安全で安心して暮らせる地域社会を実現するためには、そのまちの住民が力を合わせ、防犯の輪を広げることが大切です。

侵入犯の多くが「近所の人に声をかけられた」「顔を見られた」という

それだけのことで犯行をあきらめていきます。ご近所同士で声をかけ合う、見知らぬ人に注意を払う、そうした習慣が犯罪の発生を抑制します。近隣で発生した事件、事故、犯罪、危険な場所、時間帯などについての情報を共有することも防犯につながります。

子どもたちが犯罪に巻き込まれることを防ぐために、通学時間にあわせて庭木の水やり、犬の散歩などを通じ、日ごろから子どもたちに目を配り、声をかけることも心がけたいものです。子どものいる家庭では、身の回りにどんな危険な場所があるか、どんなことにも気をつける必要があるか、話し合う機会を持ちましょう。子どもたち自身の防犯意識を高めることも大切なことです。

町会やその他の団体による防犯パトロールは、そこに住む人たちが防犯に気を配り、地域ぐるみで取り組みを行っていることを内外にアピールする上で有効な手段です。犯人をつかまえることが目的ではありませんが、地域住民への声かけや防犯指導、事故や犯罪が発生しやすい危険な場所の点検・改善、不審者の通報などにより、防犯意識の向上、地域の治安改善に有形無形の成果をあげています。

日ごろの注意とちよとした心がけ、近所のお付き合いが、自分の暮らしを犯罪の起りにくいまちにします。無理せずできることから取り組み、続けていくことが、防犯の輪を大きく広げるのです。

犯罪被害に関する相談窓口

- 警視庁総合相談センター
電話 # 9 1 1 0 または
電話 0 3 (3 5 0 1) 0 1 1 0
- 犯罪被害者ホットライン
電話 0 3 (3 5 9 7) 7 8 3 0
- 《コンピュータに関連する犯罪の被害相談や情報収集》
● ハイテク犯罪対策総合センター
電話 0 3 (3 4 3 1) 8 1 0 9
- 《痴漢被害の相談》
● 東京駅相談所(丸の内北口改札前)
電話 0 3 (3 2 4 1) 3 8 3 7
- 《ストーカー、ドメスティックバイオレンスの相談窓口》
● 「ブーケ21」女性相談(要予約)
電話 0 3 (5 5 4 3) 0 6 5 3
- 女性相談(福祉部児童家庭課)
電話 0 3 (3 5 4 6) 5 3 8 8
- 東京ウイメンズプラザ
電話 0 3 (5 4 6 7) 2 4 5 5
- 東京都女性相談センター
電話 0 3 (5 2 6 1) 3 1 1 0
- ※警視庁総合相談センターでも受け付けています。
- 《暴力団被害相談窓口》
● 暴力ホットライン
電話 0 3 (3 5 8 0) 2 2 2 2

主な犯罪の防犯対策

★ひったくり

ひったくりの被害者は、9割近くが女性です。犯行時間は夜9時から12時の間に集中していて、犯行手段の7割が2人乗りのバイクによるものです。被害を防ぐには夜道を一人では歩かないことが一番ですが、外出しなくてはな

らないときは、人通りの多い明るい道を選び、バッグは車道と反対側に持つようにします。自転車に乗るときは、バッグを入れたカゴに荷物や上着でフタをするか、ネットを使用します。後ろからだれかが近づいてきたら、振り返るなどして顔を確かめることも効果

子どもによる地域安全マップづくり



子どもたちが犯罪に遭うことが多い昨今、子どもが自分たちの視線による地図を作製しました。作業は、まちを実際に歩いて「フェンスや柵がなく犯罪者が入りやすい場所」や「死角となっているような見えにくい場所」、見通し、人通りなどの点で危険な要因がないかを調べ地図に落としていきました。地図は、全校児童に公表し情報を共有することによって子どもたちの防犯意識を高めることに役立てられています。皆さんも自分の視点で身の回りを振り返り、自分なりの安全マップを作ってみてはいかがでしょうか。今回ご紹介したのは、中央区立有馬小学校ですが、京橋築地、明正、久松、佃島、月島第二、月島第三小学校でも同様に作製しています。

果的ですが、被害にあつたときにすぐ通報できるよう、携帯電話はバッグに入らず、身につけておくとういでしょう。

★スリ・置き引き

鉄道、デパート、飲食店が集中している地域には、スリや置き引きの被害が多く発生しています。人混みは、スリや置き引きの隠れみものになりやすいので、混雑した駅のホームや電車内、デパートなどでは、バッグを体から離さないこと。財布はバッグの奥に入れ、留め具やチャックを必ずしめるようにします。電話をかけているときや乗車券を買うときなどに、床に置いた荷物を盗られるケースもよくあります。飲み物をこぼす、物を落とすなどアクシデントを装い、すきをつくらせる手口もみられるので注意しましょう。

★車上狙い・乗り物盗

車内の現金や貴重品を盗むのが車上狙い、車やオートバイを車輛ごと盗む乗り物盗です。車上狙いを防ぐには、まずドアをロックし、ガラス窓を確実に閉めること。外から見える場所にバッグや財布を置かないことも大切です。

乗り物盗の防止には、自転車やオートバイなら径の太いU字ロックやチェーンロック、自動車ならイモビライザー（不正に作られた合鍵を使って車に侵入

した場合、エンジンを始動できなくなるシステム）などの盗難防止装置が有効です。夜間はカバーを掛け、敷地内や屋内に保管するとういでしょう。

駐車場や玄関脇の駐車スペースには、防犯灯、防犯カメラの設置をお勧めします。

★侵入窃盗

空き巣狙いが下見で気にすることは「留守宅であること」「人目と人通り」「隣近所からの見通し」「入りやすく逃げやすい家（場所）かどうか」。マンションでは4階以上の被害が約8割を占めるそうです。侵入方法で多いのは「窓ガラスを破る」「戸締まりをしていない場所を探す」。侵入に要する時間が5分を超えると6割が諦めるというデータもあります。物色にかかる時間は5分以内が約4割、5分〜15分が4割だそうです。

したがって短時間でも外出するときには玄関、扉などの鍵をしっかりかけることが大切です。ワンドア・ツーロック、そのうち一つはディンプルキー（複雑な凹凸を配した、ピッキング対策に優れたカギ）などの防犯性の高いカギにし、簡単に侵入できないようにしましょう。窓には防犯性能の高いガラスを、浴室の窓などには面格子をとりつけるとよいでしょう。敷地内に侵入者が身を隠せそうな場所をつくらないことも大切です。

まちを守る地域の力

まちを —地域ぐるみで防犯に取り組む わがまちのパトロール隊—

久松防犯協会
「浜三東部町会防犯パトロール隊」の
高橋さんと平賀さんにお話をうかがいました。

▼自主パトロールからスタート

平成17年7月、久松警察署管内に中洲町会に次ぐ2つ目の町会「防犯パトロール隊」が誕生しました。「浜三東部町会防犯パトロール隊」です。

実は日本橋浜町三丁目東部町会では、すでにその半年前には毎週1回の自主パトロールをスタートさせていました。町会長の高橋勝治さんによると、空き巣や車上ねらいの増加に対し、自分たちでできることはないかと考えていたとき、「隣の日本橋中洲町会の防犯パトロールが町内の犯罪抑制に効果を上げている」と聞いたことがきっかけだったそうです。

とはいえ、町会のメンバーにはそれぞれ



婦人部長
平賀淳子さん



日本橋浜町三丁目東部町会・町会長
高橋勝治さん

れ仕事があり、家庭があります。忙しいなか時間をやりくりして毎週集まるのは簡単なことはありません。パトロール参加者が次第に減り、続けられなくなるようなことはないか、そうした不安もあつてしばらく様子を見ることにしたのだそうです。しかし開始後、参加者が増えることはあつても減ることとはなく、半年後、晴れて防犯パトロール結成の運びとなったわけです。

▼無理せず安全に配慮して

現在パトロールは、月ごとに曜日を変え、毎週1回実施されています。午後8時に町会事務所に集合し、3〜4人の6つないしは7つの班に分かれ、30分ほどかけて各所を見回ります。人けのな

い公園や駐車場、マンションの駐輪場などの暗がりには特に注意を払うそうです。パトロール隊の安全にも気を配ります。防犯協会支給の蛍光素材を使ったベストを着るほか、班分けの際はできるだけ女性ばかりのグループをつくらないようにしています。婦人部長の平賀淳子さんによると、これまで危険を感じたことは一度もないそうですが、不審者を見かけてもむやみに声をかけたりはせず、110番通報するよう申し合わせるなど無理はしないよう心がけているそうです。

▼防犯に地域の目、地域の耳

注意すべき場所、チェックのポイントについては、警察から指導があります。その地域に暮らす住民、生活者ならではの視点と情報収集力もパトロールのカギになります。「昨日、あそこに見かけない人がいて…」とか、「人暮らしのAさんのところに、消火器のセールスがあつたらしい」といった情報を警察よりも早く耳にすることもあります。久松警察署によると、警察独自の活動と視点に、そうした地域の目と耳が加わることで、犯罪抑止効果は二段と高まるのだそうです。空き巣などの侵入犯の多くは、近所の人に声をかけられたり、顔を見られたりしたただけで、犯行を諦めるのだとか。「地域の目」は、それほど力があるのです。

また、平賀さんはパトロールを始めて

から、昼間外出するときも、犯罪防止の視点で街並みを見るようになったそうです。「よその地域のことにも、自然と目がいきます」

▼広がる防犯の輪

「町会でパトロールをしているということは、みんなが知っています。それが大事で、直接パトロールに参加することができない住民の間でも、最近、防犯意識が高くなっていることが感じられます」（高橋さん）

「パトロールを通じて警察署の方と顔見知りになったことで、それまで敷居が高いように感じていた警察が身近な存在になり、細かいことも相談しやすくなりました」（平賀さん）
パトロールの効果は、目に見えないところにも広がっているようです。

今後の課題は、最近増えてきたマンションなどに新しく住む方とどう付き合っていくかということ。同じ地域に住みながら、顔も名前も分からない人が増える一方というのでは寂しいですし、防犯上も大きな問題があるように思います。「まちに新しく住む方を取り込んでいくためにも、パトロールという地域を挙げての取り組みを、まずは継続することが大事です」と高橋さんは言います。こうした地道な取り組みが、一人ひとりの意識を高め、地域の結束力を強め、安全に住みよいまちづくりを押し進めていくに違いありません。

中央区の防犯状況と 女性が被害者になりやすい 犯罪について

中央区総務部危機管理室長
竹中太三氏にインタビュー



——最初に中央区の犯罪の状況や地域の取り組みについてうかがえますか？

中央区の犯罪被害は決して多くはありません。平成16年中の犯罪発生件数は都内23区で21番目です。防犯を意識した住宅街の整備が進んでいることに加え、中央、久松、築地、月島と総面積の割に多くの警察署があることも犯罪の発生を抑えているようです。

地域の防犯対策は、行政、警察、町内会が単独でできる時代ではなくなりました。警察も地域の防犯協会や町内会と連携し、パトロールを行っています。

銀座には、防犯カメラや警察と通話するためのマイク・スピーカーを搭載したスパー防犯灯も設置されていますが、それだけでは犯罪は減りません。やはり高い防犯意識と巡回が必要です。

——特に女性が被害者になりやすい犯罪には、どのようなものがありますか？

女性を被害者とする犯罪で一番多いのは痴漢です。ほかにストーカー、配偶者等からの暴力(DV)、さらにはひったくりの被害も男性より女性が圧倒的に多くなっています。

——痴漢やストーカーについて、被害の発生しやすい場所や時間、どうすれば避けられるかなどを教えてください。

痴漢のうち、卑わい行為の検挙が一番多いのは電車で、8割近くを占めています。被害の多い時間は通勤時間帯、深夜時間帯。年齢別では16歳、17歳が突出しており、職業別では高校生が全体の3割を占めています。また、中学生の被害も多くなっています。

電車内で痴漢に遭わないようにするためには、周囲に対する警戒を怠らないことです。混んでいる車内、特にドアの近くは危険です。狙われていると感じたら、通勤時間帯や乗車場所を変えるのもひとつの方法です。また、連れのいる人には手を出しづらいので、友だちなどと一緒に乗るのも有効です。嫌だ、やめてくれという意思表示をしっかりとすることも大事です。

ストーカーについては、こうすれば被害に遭わないという方法はありません。必ず警察に申し出て対応してもらいましょう。警察にはストーカーやDVに対応するセクションがあります。遠慮せずに110番してください。

——侵入犯などの被害に遭わないようにするためには？

住居への侵入を防ぐためには、まず玄関の鍵を1ドア、2ロックにしましょう。外から帰ったときは、家にだれもいなくても「ただいま」と言って、室内にだれがいるように見せたほうがいいと思います。高層階でもベランダにだれかが潜んでいることがありますので、窓を開けるときは注意をしてみてください。ベランダの窓を開けたまま就寝

するのも危険です。

宅配業者などを装って訪ねてきて、押し入る例もあります。ドアスコープで確認しても、変装している場合がありますから110番してください。携帯電話に110を入力してからドアを開け、危険を感じたら通話ボタンを押す方法もあります。玄関に防犯カメラを設置するのも効果があります。玄関のチャイムを押すと顔が記憶される装置を利用するのもいいでしょう。一人暮らしの女性は、表札に男性の名前を併記しておくのもひとつの方法です。

——マンションなどのエレベーターは密室になって恐い気がします。

エレベーターに、知らない男性と二人きりで乗るのはできるだけ避けましょう。2、3人の男性グループと乗るのも避けたほうが賢明です。途中から怪しい人が乗ってきたときは、2つか3つボタンを押して、すぐ次の階で降りるようにします。女性が降りる階の1つ下を押して降り、階段で先回りして押し入るケースもあるからです。おかしいと思ったら自分の部屋の階では降りずに、時間をおいて帰宅したほうがいいでしょう。

また、エレベーターの中では、相手と隙を見せないことが大事です。非常ベルの近くで、相手を監視できるように壁を背にして立ちます。特に人の出入りの少ないマンションのエレベーターでは注意しましょう。

男性中心の伝統芸能の世界で 女性ならではの感性で常磐津の魅力アピール

二世 常磐津兼豊さん



Q 常磐津とは
どういうものなのでしょうか？

約260年前に江戸で誕生した江戸浄瑠璃の語り物音楽のひとつが常磐津です。浄瑠璃には義太夫、常磐津、清元があります。常磐津は台詞があつて物語性があることが特徴です。歌舞伎の伴奏曲として使われることが多く、その際は舞台の後ろや脇で演奏します。三味線方と浄瑠璃方という二つの役割があり、浄瑠璃方は歌と台詞の部署です。私は浄瑠璃方をやっております。

Q 子どもの頃から練習されたのでしょうか？

私は3歳からです。伝統芸能を継承している家の子どもは、大体2、3歳で稽古を始めて、3歳で初舞台というのが多いと思います。私も3歳で初舞台に立ちました。浄瑠璃の稽古から始めて、楽器が持てる体の大きさになってから三味線の稽古を始めます。小さい頃はご褒美につられて舞台に出ますが、そのうちに台詞を語るのが楽しい、リズムの良いものを謡うのが楽しいという感覚が徐々に染み込んでまいります。

Q 常磐津の面白さを感じるようになったのはいつ頃ですか？

心の底から楽しいと思つたのは東京藝大に入ってからです。東京藝大は、日本で唯一邦楽の専門科がある大学で、年に何回かテストを兼ねた演奏会があります。その演奏会で箏曲、能楽、長唄、清元、常磐津など各音楽の発表を見ていると刺激されますし、同年代の中で力試しができます。敷かれたレールの上を疑問もなく進んできましたが、初めていろいろな壁にぶつかり、自分の足で歩き始めた感じがしました。それまでは常磐津百々智衛と申しましたが、平成8年に父が文字兵衛を一番上の兄に譲り、英寿を襲名したときに、私も同時に父の大叔母の名前を譲り受けて兼豊を襲名させていただきました。

Q 子育てと仕事の両立は大変なのではないでしょうか？

昨年6月に結婚し、子どもが満1歳になります。夫は松竹に勤めていて、演舞場で芝居の道具や進行のチェックをする部署におります。元々こういった世界に関しての知識や理解がありましたので、私が常磐津を続けることを喜んでくれました。妊娠10カ月まではお稽古の仕事をしていたのですが、10カ月のお休みをいただき、

Q 伝統芸能は男性社会ですから、女性は苦労が多いのではないのでしょうか？

歌舞伎は女人禁制の世界なので、役者も演奏家も男性でなければならぬわけですが、私は平成12年に常磐津ではなく新作のジャンルで歌舞伎に出させていただきました。大学時代は、女性も同じだけ前面に出るべきだと思つた時期もありましたが、今はお弟子さんたちのお稽古をして、常磐津を普及させていくことも女性の重要な役割だと思つていきます。

Q これからチャレンジしてみたいことはありますか？

私は古典を中心に活動していますが、父の作曲したものを演奏する形で、新作へのチャレンジが徐々に増えています。また、素浄瑠璃という演奏主体の公演では、常磐津の古典を女性演奏家のみで上演することも多く、そういうステージを通じて、今までご存知なかった方々に興味を持っていただきたいと思います。

「中央区女性ネットワーク」ミニミニ講演会 井戸端ディスカッションが 開催されました

柴崎さんは、会長として昭和54年から区内外で青少年の健全育成に尽力されています。特に有害図書 の追放では自動販売機の撤去等、業者に対して臆せずねばり強く働きかけ、今では自動販売機の姿を全く見ないまじになったというお話をしてくださいました。また、若者の非行防止は家庭と地域からであり、活動は絶やさず次代につなげなくてはならないとの強い思いを



柴崎直子さん

平成16年5月に誕生した「中央区女性ネットワーク」は、今年二年目を迎え、着実に女性たちの輪が広がってきています。ネットワーク会員の中から団体の活動をぜひ知りたいとの声があり、9月14日(水)「地域で育てあう女性のパワーII」と銘打ったパネルディスカッションが開催されました。パネラーは、「月島少年母の会」会長の柴崎直子さん、「美気(みな)の会」代表の川名一榮さんのおふたりでした。

お持ちで、お祭り等の機会では、若い世代の方々にも気軽に声かけをしてもらいたいというお気持ちを称える声も寄せられました。

参加者からは、長きに渡る地道な活動と、若い方々に継承していきたいというお気持ちを称える声も寄せられました。

次に川名さんは、高齢者の方々へのお化粧ボランティアのお話をしてくださいました。「美気(みな)」とは、みんなが元気で美しくなるという意味で、川名さんが発案された素敵な名称です。区内の特別養護老人ホームを月に一度訪れ、いきいきとしてほしいとの一心で顔のマッサージから始め、お化粧をしてさしあげていらつしやるそうです。「病は気から」ではありませんが、今まで床に伏していた方も、お化粧を機に起きられるようになったり、鏡を見なくても自分の目で楽しめるマニキュアが思いのほか喜ばれたり、肌で感じる喜びがあるとおっしゃっていました。

参加の方からは、長寿化が進む中、お年寄りにも喜ばれ、またその喜びが励みとなる素晴らしい活動との声が上がりました。



川名一榮さん

手作り
グループ祭り参加団体

男女共同参画かるた【た〜ほ】



大好きな、地球の環境
みんなで守ろう



中央区 地域に根づく
ブーケのまつり



通信で心をつなぐ共稼ぎ



丁寧に作る料理は
夫(つま)の味



止めて!暴力。
尊い絆たいせつに



なにごと 男女協同で
明るい家庭



にこにこ 笑って子育て
楽しい社会



ぬかりなく 家庭で分担
家事、育児



ねこの手も借りたときに
あなたの手



飲みすぎ 食べすぎ
あぁ太りすぎ



はやく見たいね
イラクの子供たちの笑顔



ひごろから 心がけよう
夫婦の会話



ふだんから家事分担で
自立する



平和の世 君(きみ)と
私(わたし)の握手から



ほのほのと 平和の社会
みんなの力で

「東京ウィメンズプラザフォーラム」に参加しました

青山にある東京ウィメンズプラザは、男女共同参画社会の実現を目指し、さまざまな事業を行っている東京都の施設です。都民の皆さんに施設を知っていただくため、10月14日(金)・15日(土)「東京ウィメンズプラザフォーラム」が開催されました。18区・8市の他に都内で活動している団体が、男女平等推進のために行った事業について展示され、中央区も日頃の活動内容を、知っていただくために出展しました。

フォーラム前日の意見交換会では、各区・市の取り組み、それに対する質問等が、活発に出されました。中でも女性相談に関して、都と各施設との連携の必要性、自治体での取り組み方に意見が出、相談者に対する対応の仕方を確認しました。役に立つ情報が多く、今後も他の自治体の情報も得ながら、より迅速な対応を目指します。

展示ブースでは、手作りかるたや講座の紹介、中央区男女共同参画ニュース「Bouquet」やパンフレット等の展示をしました。かるたは「中央区ブーケ祭り」の実行委員会が中心となって作成した「男女共同参画かるた」です。実物大のかるたの展示やブーケ祭りでのかるたとり大会の様子を紹介することで、今年度は、まさに皆さんと協力して作り上げた展示になりました。他の自治体や団体も、盛況だった講演会やお知らせしたい今後の活動、情報誌の紹介等、興味深い内容でした。中央区

から出展したパネルの一部は、女性センター13階ロビーに展示してあります。お立ち寄りください。



講演会のお知らせ

「いつもは聞けない“からだ”の話」
知ってますか？あなたのからだ

“なんとなく変”そんな時はありませんか？年を重ねることによって感じる体や心の変調や知っていたい病気の症状などを、女性が一生を通じて「身体的・精神的・社会的に健康を維持し、自分の体に主体性を持つるよう」に活動している女性専門医にやさしくお話していただきます。

例：尿失禁・子宮ガン・乳ガン・ドライマウスサプリメント等

この講演会は区の女性団体活動支援の助成金により実施されます。

●日時 2月4日(土)午後2時～4時

一部 講演会

二部 フリートーク

講師の先生を囲んで気軽に話しましょう

●講師 加藤 季子(かとう すえこ)

(アイル女性クリニック院長)

都立築地産院元院長 愛育病院元院長

●場所 女性センター「ブーケ21」
●定員 70名 申し込み不要(先着順)
●問合せ先
中央区女性ネットワーク
TEL(3555)8088

女性に対する暴力をなくす運動

11月25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」です。これに基づき、平成13年度から毎年、国が中心となって11月12日から25日まで「女性に対する暴力をなくす運動」が実施されています。この運動は、女性に対する暴力について考え、暴力のない社会づくりをすすめるためのものです。区でも多くの区民の皆さんに知っていただくために、区役所本庁舎1階ロビー、日本橋・月島区民センターに、「女性に対する暴力」をなくす呼びかけのパネルを展示しました。

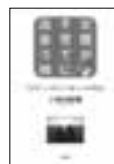
このパネルは来年3月末まで、女性センター13階ロビーに展示しています。



お勧め図書のご案内

男女がともによりよく生きるために、女の生き方とともに、2007年問題をひかえ「男の生き方」も、問われているのではないのでしょうか。今回は、10月に実施した男性講座「男のやすみじかん」の講師、土提内氏と中央区の男女共同参画推進委員の細谷氏の著書をご紹介します。

『父親が子育てに出会う時』
「育児」と「育自」の楽しみ再発見



子どもが育てば、親も育つ。筆者が二人の子どもの成長と父親としての自分自身の成長を振り返った体験談です。

『(男)の未来に希望はあるか』細谷 実・著



なぜ男たちは戦いに明け暮れ、仕事に生きようとするのか？そこで得られる喜び、幸福とは？それは女たちの幸福と交わるのか？いまの男たちが日々の営みの中で抱える切実なテーマを鮮やかに読み解いた作品です。

編 集 後 記

◆毎日、テレビや新聞などで、数多くの犯罪が報道されています。犯罪にあわないよう、自分たちで少しでも、気をつけることはないでしょうか。とはいえ具体策は、なかなかわからないものです。犯罪を未然にふせぐ手段を知りたい。そんな思いから今回、「犯罪から身を守る暮らしを守る」というテーマを取り上げてみました。取材を通して、週1回の夜回りなど、身近な取り組みが犯罪防止に大きな効果があることを改めて認識しました。犯罪がすぐになくなるわけではありませんが、一人ひとりの意識を高めることで、より安心した日々を送りたいものです。